

国際視点で
キャンパスづくり

大地域に誇れる
大学に

妹島和世 × 西沢立衛

学長特別補佐 SANAA

妹島▼例えば、玄関は正面だけという
 キャンパスにまで広がっていきよう
 中の活動がよく感じられ、周辺の
 すんなり入っていき、入らなくて
 をつくりたいと思っている。人々が
 調和していきような、開かれたもの
 かも、よく使われて、周辺とうまく
 大事業だ。その記念性は尊重しなが
 西沢▼建物を建てるというのは特別な
 新ホールの建設などに携わってい
 年に向けて、昨年から市民開放型の
 2020年の医学部創立150周年

妹島▼学内に魅力的な場所や、交流で
 きる空間があれば、誰もが行きやす
 い、親しみの持てる場所になると思
 う。そういうものを考えてみたい。



▲新ホールの内観図 (SANAA 提供)

環境との関わり、重視したキャンパス計画に



ホール断面図



妹島▼例えば、玄関は正面だけという
 キャンパスにまで広がっていきよう
 中の活動がよく感じられ、周辺の
 すんなり入っていき、入らなくて
 をつくりたいと思っている。人々が
 調和していきような、開かれたもの
 かも、よく使われて、周辺とうまく
 大事業だ。その記念性は尊重しなが
 西沢▼建物を建てるというのは特別な
 新ホールの建設などに携わってい
 年に向けて、昨年から市民開放型の
 2020年の医学部創立150周年

妹島▼学内に魅力的な場所や、交流で
 きる空間があれば、誰もが行きやす
 い、親しみの持てる場所になると思
 う。そういうものを考えてみたい。

建築家ユニット「SANAA (サナア)」として、世界を舞台に活躍する妹島和世氏と西沢立衛氏が6月1日付けで、学長特別補佐に就任した。鹿田地区の耐震化工事へのアドバイスをきっかけに始まった岡山大学との関わりが、同地区への市民開放型の新ホール設計、津島地区を含む全学のキャンパス整備における助言へとつながった。国際的な視点を生かし、学長を補佐することとなった2氏。森田潔学長の掲げる「美しいキャンパス」づくりに向けた取り組みとは。本格的なキャンパス計画の着手を前に、これからの意気込みを聞いた。

学長特別補佐として、大学全体の
 キャンパスづくりにアドバイスを
 する。魅力づくりのポイントは。
 西沢▼東京を中心に、多くの大学が市
 街地にキャンパスを求めているが、
 獲得できずにいる中、これだけ街中
 にキャンパスがあるのはすごい財産
 だと思う。
 キャンパスづくりは、まだ始めた
 ばかり。ただ、全部作り直すとい
 うことではない。出合いや何かをや
 つてみたいというチャンスを増やして
 いくような場作りをしたいと思っ
 ている。
 津島地区と鹿田地区の両方がある
 ことで、大学としての魅力は増すと
 考えている。この二つが連続しあ
 うことでさらに魅力になっていけ
 る、と思う。

独立性活かしつつ、シェアできる空間を



◀鹿田地区に建設が計画されている新ホールの模型

Interviewer
 聞き手
 編集長▼後藤 邦彰 (工学部教授)
 副編集長▼林 創 (教育学部准教授)

妹島 和世 (せじま・かずよ)
 1956年 茨城県生まれ
 1981年 日本女子大大学院修了
 伊東豊雄建築設計事務所入所
 1987年 妹島和世建築設計事務所設立
 現在 岡山大学長特別補佐
 日本女子大客員教授
 多摩美術大客員教授
 金沢美術工芸大客員教授

西沢 立衛 (にしざわ・りゅうえ)
 1966年 神奈川県生まれ
 1990年 横浜国立大大学院修了
 妹島和世建築設計事務所入所
 1997年 西沢立衛建築設計事務所設立
 現在 岡山大学長特別補佐
 横浜国立大大学院教授

SANAA (サナア)
 Sejima and Nishizawa and Associates
 妹島和世と西沢立衛が1995年に設立した建築家ユニット。代表作に「金沢21世紀美術館」(金沢市、2004年)「トレード美術館ガラスパビリオン」(米国、2006年)「海の駅なおしま」(香川県直島町、2006年)、「ニュー・ミュージアム・オブ・コンテンポラリー・アート」(ニューヨーク/米国、2007年)「ROLEX ラーニングセンター」(スイス、2010年)などがある。現在、2012年開館予定の「ルーブル・ランス」(仏)などのプロジェクトが進行中。2010年には建築界のノーベル賞と称される米プリツカー賞を受賞した。



金沢 21世紀美術館 ©SANAA



ROLEX ラーニングセンター ©SANAA



トレード美術館ガラスパビリオン ©SANAA



ルーブル・ランス Francis Bocquet, SANAA © SANAA / Imrey Culbert / Catherine Mosbach

妹島▼いろんな専門の人が同じエリアにいるというのが、大学の特徴でもある。各建物の独立性もすごく重要だけど、どこかで重なり合う場所があった方が、互いに学び合うきっかけにもなる。それぞれが独立しているながら、一緒にシェアする部分もあつたり、ということもありうるのではないか。

—学長は地域に開かれた大学を目標にしている。

妹島▼地域の人にとだ「どうぞ」と言っても、閉じたものだと思ってしまう。だけど、人を招いているような建物だと、人々が入りやすくなる。そこで学生と会うこともできるし、話も始まる。

西沢▼建物の開放感というのは、建物を利用しない人々にとっても意味があるものだ。利用しなくても、町の人が岡山大学に親しみを持った、誇りを持っているという事は、非常に重要なことで、それは大学が精神的に開かれている証にもなる。岡大を卒業していなくても大学を愛する。

町の公共物というものは本来、駅にしても公園にしても大学にしても、そうあるべきだと思う。その意味でも、大学が地域に根ざすことの重要さは疑いようのないこと。どれ

だけ人々に愛されるか。学内外の人が誇りに思えるか。それは重要な課題だと思う。

—最後にお二人がイメージする大学像と意込みを教えてください。

西沢▼学校というのは、人間が非常に創造的になるところと思う。また、新しい時代を目指す創造というのか、現代的な創造と変化が絶えず起こる場でもある。それが地域の財産になっていくのは素晴らしいことだと思う。

妹島▼岡山大学のように、キャンパス全体の調和を考え、またキャンパスの中だけでなく、地域全体との連携を考えるとするのは素晴らしいと思う。難しいことかもしれないし、時間もかかるかもしれないが、いろいろな可能性が考えられる。お役に立てるところがあれば是非私達もがんばっていききたい。

グラウンドデザイン ともに知恵絞る

学長 森田 潔



大学の本质である教育と研究を充実させるにも、環境整備は欠かせない。理想とする美しく気品あるキャンパスづくりを進めていく。計画は10年以上のスパンになると思うが、学長特別補佐のお二人は国際経験も豊富であり、ご意見を参考にしながら、グラウンドデザインをつくっていききたい。津島、鹿田地区の整備はもちろん、「街中キャンパス」づくりも手がけ、市民にもオープンなキャンパスにしたい。

皆さんに誇りに思ってもらえる大学を目指した取り組みは緒に就いたばかり。お二人には大学のさらなる発展のため、ご尽力いただきたい。

大学は創造の場 地域の財産に